

シーン 1

大阪の顔にふさわしい御堂筋

- 都市のメインストリートは、その都市のイメージを伝える重要な役割を担っており、メインストリートを活かしたみちづくりが、これからの都市のあり方を決めるとも言われています。
- 御堂筋や周辺地域が持つ歴史や文化を活かすとともに、シンボルとなるイチョウ並木や沿道建物と一体となったまちなみを形成するなど、都市の顔としての風格を備えた、より質の高い空間が期待されます。
- 御堂筋のフルモール化により、これまでにない広大でシンボリックな空間が創出され、その空間を歩行者が安心して快適に、楽しみながら回遊でき、大阪らしさを感じてもらえる「みち」となることが期待されます。



大阪の顔にふさわしい風格のある景観

- 御堂筋のシンボルであるイチョウ並木を保全、継承するとともに、イチョウの存在感を引き立たせる空間、イチョウの魅力を高める空間づくり。
- 沿道景観とともに、都市の顔にふさわしい風格ある、洗練された景観づくり。
- 御堂筋イルミネーションなど、世界に類を見ない景観を創出し、国内外の人々をひきつける空間づくり。



御堂筋の夜景

人中心の道路空間

- 都心部の交通ネットワークの再編及び御堂筋を「車」から「人」中心の空間に転換。
- 歩行者を優先としながらも、パーソナルモビリティなどの新たな移動ツールがお互いにゆずりあい、協力する「共有される空間(シェアド・スペース)」の考え方をふまえた空間づくり。



梅田地域 うめきた広場の梅田ゆかた祭
(主催: (一社) グランフロント大阪TMO)



船場地域 道修町道の整備計画イメージ
(資料提供: 道修町まちづくり協議会)

周辺エリアとの歩行空間ネットワークの形成

- 船場地域等の歴史・文化、道頓堀川・中之島の親水空間、地下空間の高度なインフラ機能等とのネットワークを強化し、御堂筋周辺を含めた面的な視点で、観光、歴史・文化、産業面の新たな魅力を創造。
- 周辺のまちづくりなどと一体となった、面的な視点による大阪の顔づくり。



クリスタ長堀等の地下空間



道頓堀川の歌舞伎船乗り込み
(主催: 大阪松竹座)



御堂筋沿道まちづくり3団体共同提案



スペイン バルセロナ ランブラス通り

シーン 2

新たな魅力が体験できる御堂筋

- アジアにおける他都市の発展など、都市を取り巻く社会環境、経済情勢は大きく変化し、都市間競争が一層激化しています。都市間競争に打ち勝つためには、国内外から呼び込んだ人・モノ・資金・企業・情報といった都市資源の交流を促す場、新たな魅力が体験できる場を創出していくことが考えられます。
- このような場を創出していくためには、従来の枠に捉われず、道路空間利用に関する規制の緩和や新たな制度整備をはじめ、市民や企業の積極的な参加・協働、ひいては民間主体による公共空間のマネジメントが行える仕組みづくりなどの取組みがあげられます。



出会いの空間を創出

- 幅員44メートルという御堂筋の持つ広大な空間や沿道ビルの壁面後退部分を一体的に活用するなど、インパクトのある非日常的なイベントなどを開催することで、「ひと」と「まち」、そして「ひと」と「ひと」が出会う「場」を創出。



御堂筋オータムパーティー（主催：御堂筋パーティー2017実行委員会）

公民連携により新しい出会いや ビジネスチャンスを生み出す

- 公共用地、民地などの用地区分や従来の制度に捉われず、道路空間利用に関する規制を緩和することで、多様な人材や企業をよびこみ、道路空間を最大限に活かした利活用、アクティビティを促すことで、新しい出会いやビジネスチャンスを生み出し、企業活動の活性化、新たなにぎわいを創出。



(資料提供: (一社) 御堂筋まちづくりネットワーク)



(資料提供: NPO法人御堂筋・長堀21世紀の会)



難波駅前広場 歩行者優先化のイメージ
(資料提供: 橋爪紳也氏/協力: ミナミまち育てネットワーク)

24時間ひとをひきつける「場」を生み出す

- 24時間稼働する多機能エリアとして、人々の五感を刺激し魅了するイベントやアクティビティなどが定期的に開催されるなど、道路空間を通じてひとをひきつける「場」を生み出す。



御堂筋イルミネーション (主催: 大阪・光の饗宴実行委員会)



フランス シャンゼリゼ通りのオープンカフェ

写真出典: Radu Razvan / Shutterstock.com

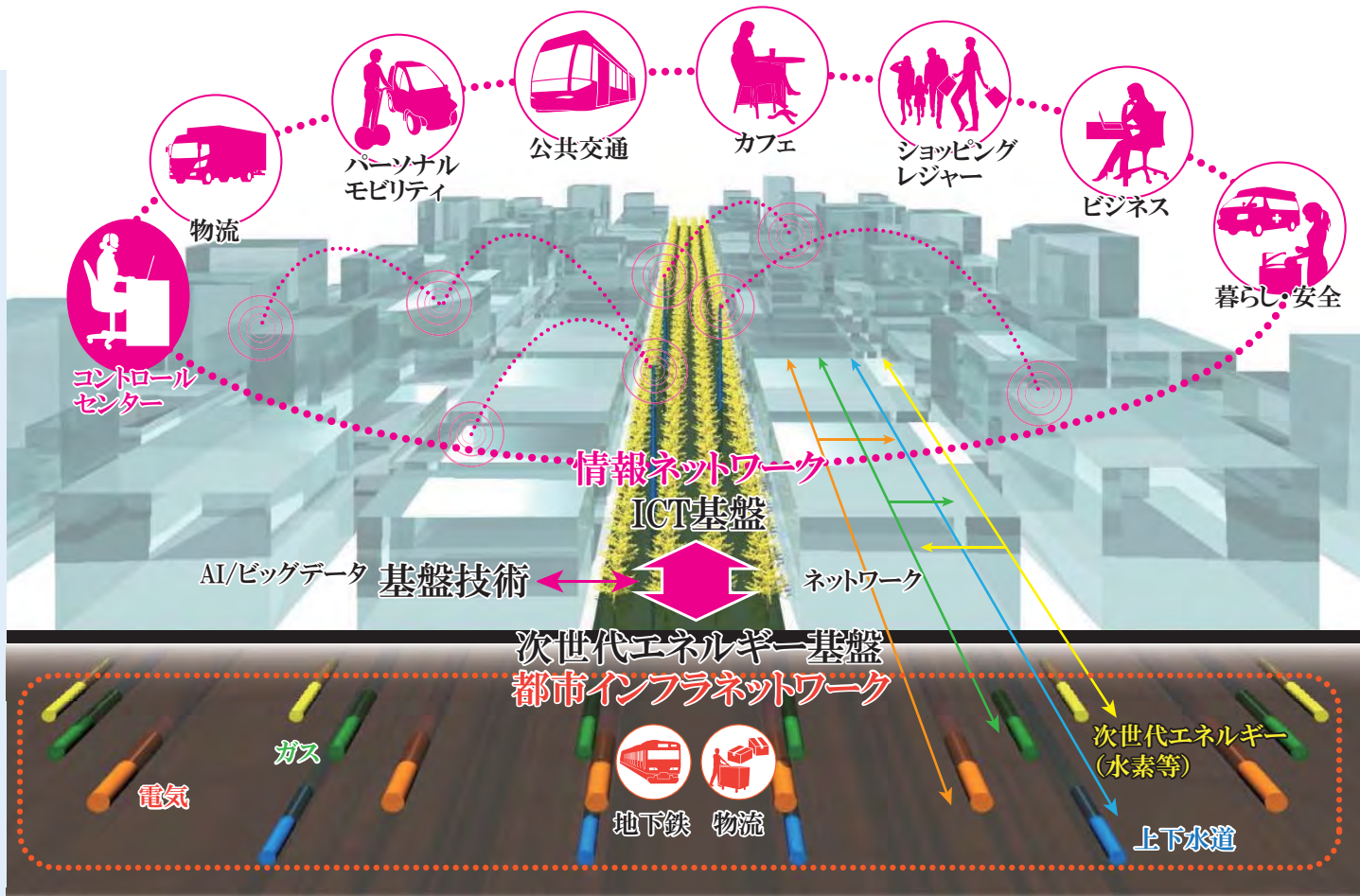


水都大阪フェス2018 (主催: (一社) 水都大阪パートナーズ)

シーン 3

都市の成長を支える多様な機能を備えた御堂筋

- 都市や経済の成長を促す都市インフラとして、道路に課せられた役割は大きいと言えます。特に御堂筋においては、様々な都市機能が集積し、優れた立地環境を活かした拠点間のネットワーク化が可能であることから、空間機能の多様化や高度化を図ることで、その役割を一層果たしていくものと思われます。
- 例えば、暮らし・ビジネスといった生活インフラを含め、電気・ガス・水道などの都市インフラ全体を新たな情報システムによりネットワーク化を図ることで、効率的で持続可能な都市への転換につながります。



持続可能なまちづくり

- SDGsの考え方に基づき、持続可能な都市・エリアを創出。
- まちで働く人、まちに住む人、訪れる人など様々な人びとにとって安全で快適に、そして豊かに過ごすことのできる持続可能なまちづくりをめざし、都市SDGsと称される目標11「持続可能な都市(住み続けられるまちづくりを)」を中心に、他16の目標に貢献できる都市・エリアの形成。

11 住み続けられるまちづくりを



《SDGs 目標11「持続可能な都市(住み続けられるまちづくりを)」》
～都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする

- 目標11では、テーマ別ターゲットとして、住宅供給、交通整備、都市計画、遺産・遺構の保護、脆弱性の軽減(災害)、環境保全、公共空間の整備が示されています。
- なかでも道路空間に直接関連する公共空間の整備については、「2030年までに、女性・子ども、高齢者および障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。」といったターゲットが示されています。



ビッグデータなどの新たなICTの活用イメージ



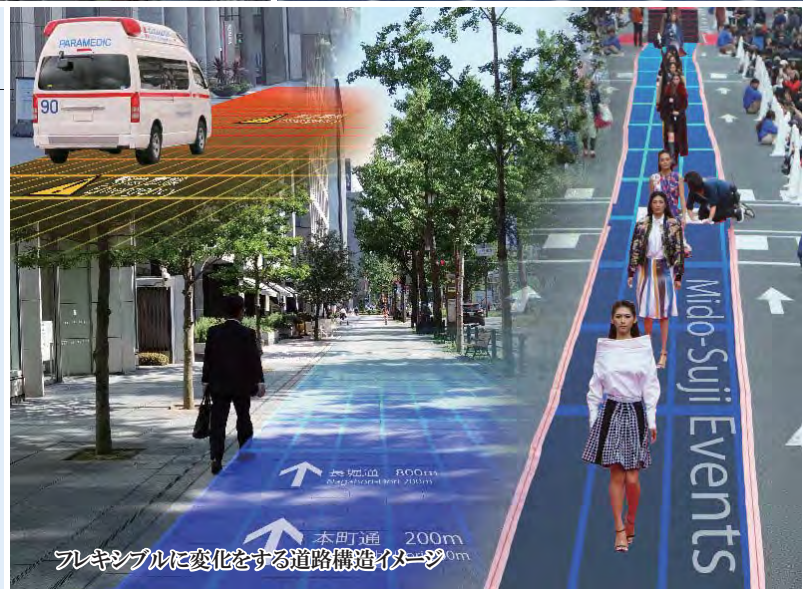
遠隔操作(ドローン)による取組みイメージ



発電インフライメージ

最先端技術の展開

- IoT(モノのインターネット)やビッグデータなど、新たなICTの活用による情報ネットワークの構築・サービスの提供。
- 遠隔操作やロボット・自動制御技術を用いた防災システムや効率的な道路の維持管理システムなどの構築。
- 再生可能エネルギーなどを活用して、道路そのものが発電媒体となるインフラシステムの構築。
- 曜日で異なる交通流や緊急車両の通行、イベントなど求められる空間機能にフレキシブルに変化をする道路構造の実現。
- 道路空間に最新技術を導入し、ショーケースとして世界に発信。



スマートコミュニティの形成

- IoTなどの最先端のICTを駆使して、都市の機能やサービスを効率化・高度化し、生活の利便性や快適性を向上する都市・エリアの形成。
- 国際競争力の強化、地域のブランド力の向上に向けた、水素エネルギーや再生可能・未利用エネルギーをはじめとする分散型電源の活用や、ICTによるエネルギー管理システムの構築。
- 複数の施設や建物間など面的な広がりを持ったエリアをネットワーク化し、災害時の防災・減災力の向上及び平時の低炭素化を実現するエネルギー供給システムの構築。



※SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標):

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標で、地球環境や経済活動、人々の暮らしなどを持続可能とする17の分野別の目標と、169項目のターゲット(達成基準)が示されている。

